

開催案内

マンスリーセミナー

421 回	6/19 (火)	ナノカーボン材料を用いた チップ上光電子デバイス開発	慶應義塾大学 理工学部 物理情報工学科 准教授 牧 英之 氏
<p>(内容) カーボンナノチューブやグラフェンといったナノカーボン材料は、その原子オーダーで小さな構造に起因して、特異な電気伝導特性が発現することから、トランジスタや導電膜のような電子デバイス用材料として注目されてきた。一方、近年は、その特異な量子力学的効果や、光物性、熱物性も利用して、量子デバイスや情報通信用の光・電子デバイス用の材料としても注目されてきた。本講演では、ナノカーボン材料を用いた発光素子や受光素子などの光・電子デバイス、超伝導ナノワイヤデバイスや単一光子発生といった量子デバイスなどの研究開発状況について、我々の最近の成果とともに紹介する。</p>			
422 回	7/17 (火)	有機ELディスプレイ・照明の技術開発動向 と将来展望	山形大学 COI研究推進機構 産学連携教授 菰田卓哉 氏
<p>(内容) 有機 EL が新たなステージにきた。多くのアナリストが有機 EL のスマートフォンへの搭載率が 2020 年には 45% を超えるとの予測を出している。少なくとも、中小型分野での液晶から有機 EL のシフトは揺るがないものと考えられる。有機 EL のテレビ応用も日本のテレビ御三家が有機 EL テレビを発売し、予想以上の売れ行きを示している。その背景には、有機 EL の持つディスプレイとしてのポテンシャルはもちろんだが、それを実現する材料、プロセス、デバイス技術の急速な進展が大きく寄与している。また、照明分野においても、面照明やフレキシブルデバイスを実現できる有機 EL 照明は外すことのできない重要なアイテムとなっている。将来的には LED 並みの効率期待でき、点光源の LED と面光源の有機 EL をうまく使いこなすことにより、新たな上質な照明空間実現が期待される。本講演では、最近急速に進展している有機 EL 技術全般について、その技術開発動向とその将来展望について紹介する。</p>			
423 回	8/28 (火)	空間光通信システムの課題と研究開発動向	東海大学 情報通信学部 通信ネットワーク工学科 教授 高山佳久 氏
<p>(内容) 通信システムに期待される大容量伝送や長距離伝送に加えて、装置を小型に構成できるといった特長を有する光の空間伝搬を利用した通信の研究開発が盛んに進められている。これまでに、国内外における実証実験の成功が報告されているが、同時に、解決すべき課題も多く見出だされている。そこで本講演では、光の空間伝搬を利用する通信において特に移動体を相手とする場合に着目し、装置に必要とされる機能や装置の構成例、技術的な課題などについて述べる。また最近始まった技術標準化の議論および国内外の研究開発動向を紹介する。</p>			

最新情報は光産業技術振興協会のマンスリーセミナーのページをご覧ください。

会 場：光産業技術振興協会（有楽町線 江戸川橋駅 3 番出口）
東京都文京区関口 1-20-10 住友江戸川橋駅前ビル 7 階
時 間：午後 3 時 30 分～5 時 30 分
定 員：60 名（申込先着順）
<http://www.oitda.or.jp/main/monthly-j.html>

参 加 料：協会賛助会員：1,500 円（1 回につき・消費税込）
一般参加：3,000 円（1 回につき・消費税込）
申 込 先：光産業技術振興協会 開発部 石森
TEL：(03)5225-6431 FAX：(03)5225-6435
E-mail：mly@oitda.or.jp